

令和8年度 津市教職員研修について

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、学校等の管理下における児童生徒等の災害（負傷、疾病、障害、又は死亡）に対して、災害共済給付（医療費、障害見舞金、死亡見舞金の支給）を行っています。また、給付実績から得られた事故情報を整理・分析の上、外部有識者の知見をもとに事故防止のための様々な資料を作成しております。

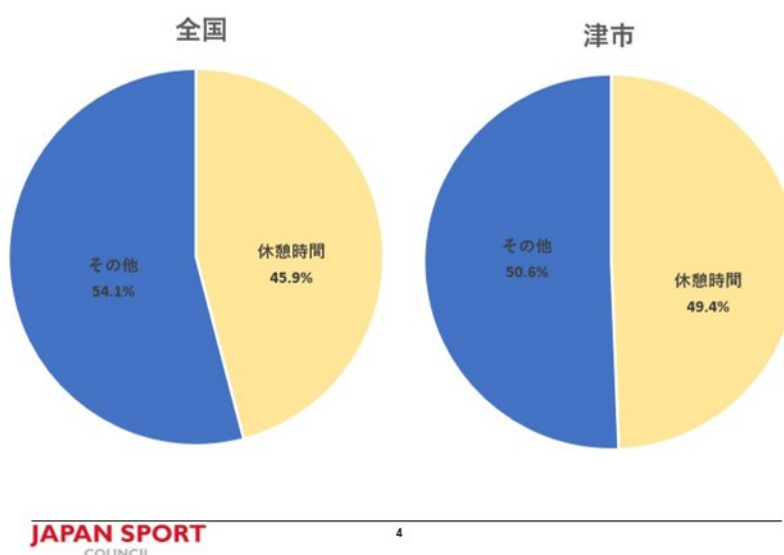
今回は、津市教育委員会から講師派遣をいただき、令和8年7月31日（金）に津市新町会館で開催された「令和8年度津市教職員研修」において、津市立幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校の養護教諭47名を対象に「JSC 事故防止資料と「3E」を活用した学校・園事故防止の実践について」というテーマで、講義を行いました。

【講義の内容（抜粋）】

1 統計データから事故を理解する

学校・園でどんな事故が起きているのか、令和6年度の災害共済給付状況を場合別、場所別、遊具別、部位別、運動種目別、障害別の発生件数、死因別の発生件数を全国と津市で比較しながら事故の現状を説明しました。

小学校における災害の現状（場合別）



【小学校における災害の現状（場合別）】

2 事故事例及び「3E」を活用した事故防止

重大事故を防ぐためには、過去に起きた重大事故を知り、その原因を分析することが大切です。全国の学校・園で発生した重大事故の事例を調べ、「なぜ事故が起きたのか」「何を変えれば防ぐことができたのか」を考えながら対策を進めていく。さらに、そ

の対策は本当に効果があったのかを確認し、改善を繰り返していくことが事故予防の基本であります。

まず、全国の学校・園で発生した重大事故の調べる方法として、「学校等事故事例検索データベース」の活用について紹介しました。このデータベースには、全国の学校・園で発生した死亡事故や後遺症が残った事故の事例が掲載されており、学校種別ごとに検索することができます。

次に、事故防止を考える際に重要な「3E」という考え方についても紹介しました。3Eとは、「環境（Environment）」「教育（Education）」「ルール（Enforcement）」の3つの視点から安全対策を行う方法です。

研修では、小学校で実際に起きた外貌・露出部分の醜状障害と中学校での視力・眼球運動障害の2つの事例について、再発防止策を3Eの観点から各3分間で周りの先生方同士で話し合って考え、発表していただきました。

事故予防のために変えるもの：3E

Environment（環境）

- ・危険個所の点検・改善
（床、遊具、動線）

Education（教育）

- ・危険予測力の育成
（なぜ、危ないかを理解）

Enforcement（ルール）

- ・決まりの徹底・見直し



【事故予防のために変えるもの：3E】

3 事故発生時の対応

暑い日が連日続いていますので、熱中症の対応を小学校・中学校は「スポーツ事故対応ハンドブック」で、幼稚園は「保育事故対応ハンドブック」で説明しました。

各ハンドブックは、フローチャートで分かりやすく説明されていますので、誰が読んでも同じように、正しく処置を行うことができます。

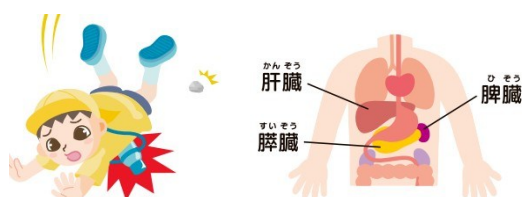
また、熱中症対策として水筒を持ち歩く機会が増える季節ですが、水筒の持ち方には注意が必要です。首や肩から水筒を下げたまま移動中に転倒すると、水筒が腹部と地面の間に挟まり、内臓を損傷するおそれがあります。特に子どもは腹部を守る筋肉や脂肪が少なく、肝臓や脾臓などを傷つけやすい特徴があります。事故を防ぐためには、水筒をリュックやランドセルのホルダーに入れて持ち運ぶことや、遊具で遊ぶ際には水筒を置いてから

遊ぶことが大切です。水分補給をしながら、安全な持ち方についても指導していくことが重要であること等を説明しました。

水筒の持ち方、だいじょうぶですか？

転倒時に起こりうる危険

- ・ 腹部を強く打つ
- ・ 肝臓、脾臓、脾臓などの内臓を損傷する
- ・ 外表上の異常が見られなくても、手術や入院を要する
場合がある



JAPAN SPORT
COUNCIL

53

【水筒の持ち方、だいじょうぶですか？】

【研修会を終えて】

受講者の方のご感想を一部紹介させていただきます。

- ・ 事故は偶然に起こるものではなく、環境・教育・ルール（3E）のいずれかに不十分な点があることで発生しやすくなることを学び、子どもの不注意だけでなく、環境整備や指導、ルールの在り方から事故を捉えることの重要性を実感した。
- ・ 全国や津市の事故統計、具体的な事故事例やヒヤリハットを通して、事故の実態を具体的に知ることができ、自校の状況を振り返りながら事故防止について考える機会となった。
- ・ 児童保健委員会等を活用し、けが防止や安全対策について劇や呼びかけを行うなど、子ども自身が事故防止について考える機会をつくりたい。
- ・ 「スポーツ事故対応ハンドブック」等の資料やフローチャートを掲示・ラミネートするなど、事故発生時に養護教諭だけでなく、他の教職員も確認して対応できるよう、校内での活用を進めたい。
- ・ 安全点検は目視だけでなく、実際に触れる、動かす、登ってみるなど、子どもの目線に立つて行うことが重要であると気付かされた。



【受講者風景】

【最後に】

名古屋支所管内の教育委員会や学校関係団体、幼稚園・保育所の関係団体の職員研修等や大学の教職課程において、「ＪＳＣ職員から事故防止に関する話をしてもらいたい」等のご要望がございましたら、ぜひ名古屋支所へご連絡ください。

＜参考資料＞

- ・ [災害共済給付 Web](#)
- ・ [学校等事故事例検索データベース](#)
- ・ [スポーツ事故対応ハンドブック](#)
- ・ [保育事故対応ハンドブック](#)

【問い合わせ】日本スポーツ振興センター災害共済給付事業部名古屋支所

TEL：０５２－５３３－７８２１ E-mail：saigaikyosai-nagoya@jpnssport.go.jp